



昭和大学
SHOWA University

—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進的医療の推進
医療人の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 長谷川 篤司
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)
いちいちごいち

ホームページ: <https://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

歯科放射線科のバックヤード

歯科放射線科 診療科長・教授 松田 幸子

歯科放射線科では、さまざまな装置を使って画像検査を行っています。ここでは当科の裏側のお話をしたいと思います。

我々歯科放射線医は、放射線専門医を中心にCT検査などの画像診断を行っています。

ご紹介医の先生からのご依頼内容や全身疾患の有無、以前撮影された画像があるときにはそれも確認しながら、検査目的に沿った報告書を作成しています。

画像を診断していると、歯が語りかけてくることがあります。「この歯は何度も腫れたことがあるなあ」とか、「この歯が一番頑張っていたのだろうなあ」ということがあります。他にも、「これは大変な治療になりそうだなあ」とか、「腫れがひどくて麻酔が効きづらだろうなあ」という画像もあります。そのようなときは、「治療を無事に終えて、少しでも早く元気になれますように」と思いながら、報告書を作成しています。

画像を診断していて思うのは、顔が腫れるほど大きな歯の問題が生じた人は、他の

歯にも大きな問題が生じていることが多い、ということです。「これでは左でも右でも咬めないだろうな」と思うことがしばしばあります。

歯に関しては問題が小さいうちに対処することが重要だと思います。歯の病気は自然には治らないのです。歯が失われてしまうと、食物をよく噛むことが難しくなります。口の中を健康に維持して食事を摂れることは体を労わることに繋がります。なぜならば自分の身体は自分の食べたもので造られているからです。

今月は歯の衛生週間でしたが、お口のこと、気になることがありましたら早めに、できれば定期的な歯科受診をお勧めいたします。

これからも皆様のお役に立てる画像情報提供を行ってまいります。よろしくお願いいたします。



- P1 巻頭言 歯科放射線科のバックヤード
- P2 診療科紹介 歯科放射線科
- P3 歯科治療トピック 歯内治療科
- P4 患者さんからのご意見・ご要望、編集後記

記事見出しの色分けをいたしました。

■ 患者さん向け、 ■ 医療機関向け、 ■ お知らせなど

診療科紹介：歯科放射線科

歯科放射線科 診療科長補佐・講師 黒田 沙

歯科放射線科では、X線検査を中心とした画像検査とその読影診断を行っています。歯や顎骨内に発生した疾患は、通常、表面からは観察できません。このような疾患を観察可能にし、どのように治療をしていくかを検討するために重要なのがX線検査です。

最も一般的に用いられているのはお口の中に小さな器具を入れて撮影する口内法X線検査で、歯の1本1本を詳細に確認できるのが特徴です。また上下の顎を一度に撮影するパノラマX線検査もよく用いられており、広い範囲の病変の確認が出来る他、歯と顎の骨を全体的に観察することで症状なく進行していたむし歯などが発見できることもあります。

また、当科は歯や顎骨を三次元的に確認するためのCT装置を複数有しています。これらのCTは歯や顎骨内の疾患の三次元的な範囲を把握したり、矯正治療、インプラント治療を行う際に骨の厚みや形態を確認したり、血管などの構造物との位置関係を確認したりなど様々な治療において重要な検査です。さまざまな患者さんの診療に貢献できるよう、われわれはX線写真の質にこだわり、診療に役立つX線写真の提供を心がけております。

通常の撮影業務は、主に診療放射線技師が担当し、歯科医師は主に画像診断、画像管理、CT検査における造影剤の投与などの業務を行い、主治医の先生が検査結果を有効に利用していただくために画像診断報告書を作成しています。また昭和大学病院放射線科との関係を深めながら、歯科病院にはないMRI検査などの画像診断にも関わっております。

当科では地域の医療機関からのご依頼に応じて、一般X線撮影やCT検査も承っております。撮影したCT検査の結果は画像のデータに加えて歯科放射線専門医が読影報告書を作成してご報告しています。矯正治療のためのX線撮影が必要な時や、インプラント・歯や顎の疾患で三次元的な画像検査が必要な際には是非ご利用ください。

われわれ歯科放射線科医が担当医として患者さんに接する機会は少ないですが、何かご不明なことがございましたら、お気軽にスタッフまでお声がけください。



歯科用コーンビームCT装置



歯科放射線科同門会

歯内治療科は4F西診療室にあり、根管治療を専門としています。根管治療とは、いわゆる歯の根（神経）の治療であり、痛みや腫れといった症状の軽減のみならず、治療後に長期にわたって歯を機能させるために重要な処置であり、歯を残すための基礎工事といえます。当科の特徴的な治療についてご紹介します。

1. マイクロスコープを用いた歯内治療

マイクロスコープ（歯科用実体顕微鏡）は、近年の歯内治療において、なくてはならないものです。暗くて狭い根管を、マイクロスコープによって明るく拡大して観察することによって、肉眼では確認できなかった解剖学的構造や感染源を明らかにし、より確実に治療を進めていくことができます。例えば、見逃されていた根管の探索、複雑な解剖学的構造をもつ根管への対応、歯根破折（歯の根のひび）の検査などに加え、通常の治療でもより確実に汚染物質を除去することが可能です。

現在では、すべての治療台にマイクロスコープを配備し、いつでもマイクロスコープが使用可能な治療環境となっています。



歯内治療科外来

各治療台にマイクロスコープが設置されている。

2. マイクロスコープを用いた外科的根管治療

マイクロスコープを用いたもう一つの代表的な治療に外科的根管治療があります。

通常の根管治療では治らない難治性の疾患に対して、歯根端切除術とよばれる外科処置により根の先の部分の感染を取り除くことで、治癒が望める場合があります。歯科用CTを撮り、三次元的に歯根やその周囲の骨・解剖学的構造の状態を精査した上で、歯根端切除術の適応と診断した場合には、マイクロスコープを用いて手術を行います。

微細な構造を確認しながら、より精細で外科的侵襲の少ない処置が可能になり、従来の方法と比較して治癒率も向上しています。

3. 自費根管治療

保険診療では使用しうる薬剤や器材に制約がありますが、自費治療を選択していただくことで、治療に使用する薬剤や器材の選択の幅が広がり、歯の保存に対してより予知性の高い治療をご提供できるようになりました。



マイクロスコープを使用した外科的根管治療

マイクロスコープで見ている視野をモニターに映すことが可能なため、より確実に治療を進めていくことができるだけでなく、患者さんへの説明やスタッフ・学生教育にも有用である。

患者さんからのご意見・ご要望

事務課管理係

ご意見・ご要望	回答・改善等
車イスの介助で来ている者です。玄関前の自動車の乗降スペースの所にくぼみがあり、つまずきそうになりました。できれば穴埋めをお願いします。	ご不便をおかけし、申し訳ありません。 現在、障がい者用の駐車スペースのアスファルト改修工事を計画しています。施行方法、スケジュール等を調整中であり、施行が完了するまで今しばらくの間は凸凹にご注意いただけますようお願いいたします。 (管理係)
ご飯が美味しく、快適に入院生活を送ることができました。ありがとうございます。	お褒めのお言葉ありがとうございます。今後も、味、栄養面などを考慮した上で、美味しい食事を提供できるようスタッフ一同で努めてまいります。 (栄養科)

食堂がリニューアルオープンしました

事務課管理係

2号棟地下一階食堂がリニューアルオープンで大きく変わりました！

新しくなった食堂のテーマは「食堂革命」。老舗としてあの行列が絶えない、有名人が多数通い詰める新宿アカシアのロールキャベツとカレーを食堂で食べる事ができます。

またビストロトリップの日替わり料理はボリュームと味にこだわり、通常の飲食店ではありえないほどのコストパフォーマンスを実現いたしました。

さらに、従前ではできなかった料理のテイクアウトが可能となりました。また、主に学生向けとなる弁当販売を新たに始めるなど、皆様の好みやニーズにお応えいたします。

皆様のご来店を心よりお待ちしております。



リニューアルオープンした食堂

編集後記

むし歯予防デーはいつから始まったのかを調べてみると、1928年に「6（む）4（し）」にちなんで日本歯科医師会が実施したのが始まりだそうです。もうすぐ100年になります。

これを機会に歯のクリーニングや口腔清掃指導を受けてみてはいかがでしょうか。

(Y・M)

